

「災害廃棄物オンライン研修～フロー図で見える化～」 の紹介

- 中小規模自治体から、住民・ボランティアの方まで、できるだけ幅広い方に、災害廃棄物について理解頂くこと、そこから応用展開も可能にすることを目的とした学習システムを開発中です。
- 災害廃棄物処理の全体像を、主な業務の流れを示したフロー図を用いて効率的に理解して頂くことを目指しています。
- それぞれの業務の内容、トラブルが起こった際の実際の対応事例も学ぶことが出来ます。

是非、試行頂き、ご感想等頂けませんでしょうか？

ご協力頂けましたら、今後、関連情報を差し上げたり、プログラム完成後、メンタリングしながらシステム提供させていただきます。

アクセスURL：<https://dev.tci.tokyo/ouyoutisitu-disaster/>

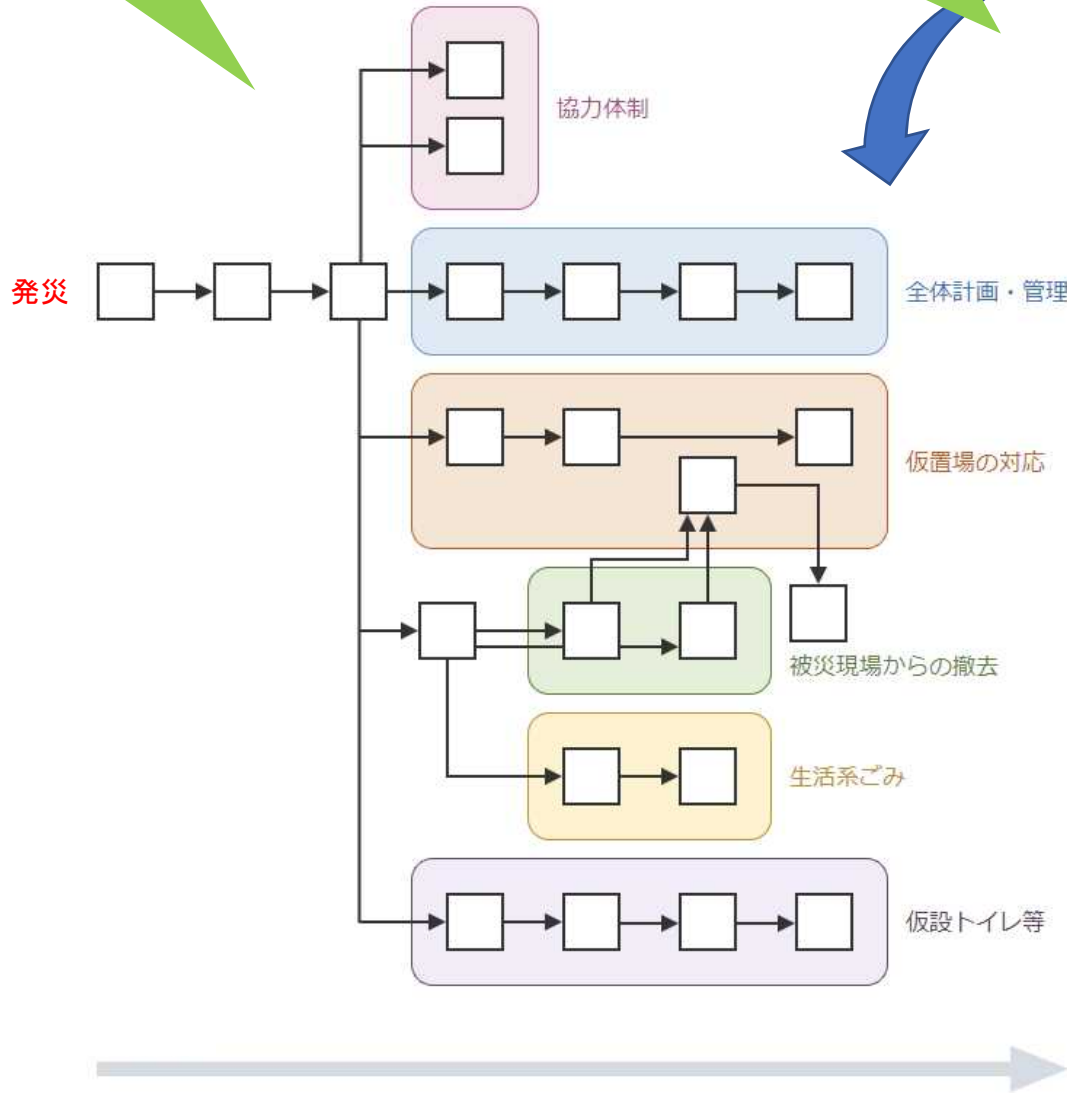
ユーザー：oyoyser、パスワード：ajaAjk5adl3h

注：試用として期間限定でアクセスできます。期間が過ぎましたらID・パスワードは変更されますが、アクセスURL・ID・パスワードの拡散はご遠慮ください。

お手数おかけしますが、試行頂いた場合、ご連絡先や意見等をメールか電話でご一報ください。現在の試行システムではアクセス頂いた方のメールアドレスが保存されないため、上記のご連絡のためにも必ずお願い致します。京都大学浅利美鈴研究室（担当：益田）ecocheck@eprc.kyoto-u.ac.jp、電話075-753-5922

災害廃棄物処理の
初動業務の流れ

アクション一覧からドラッグ&
ドロップで左のフロー図に埋
め込み、完成させます



No	アクション	
1	🕒 進捗管理、工程見直し	解説
2	🏠 仮置場設置・運営	解説
3	🤝 民間事業者との連携	解説
4	📄 処理実行計画策定	解説
5	🚽 仮設トイレ設置	解説
6	🔥 避難所閉鎖・生活ごみの通常処理	解説
7	🚚 片付けごみの搬入	解説
8	🚨 被害状況の把握	解説
9	👤 職員の安否確認	解説
10	🗑️ 破碎・選別	解説
11	🏠 損壊家屋等の撤去	解説
12	📣 住民への広報	解説
13	🚽 仮設トイレ撤去	解説
14	🗑️ 生活・避難所ごみの収集運搬	解説
15	🌅 仮置場の復旧・返却	解説
16	🔍 仮設トイレ必要数の把握	解説
17	📍 仮置場候補地選定	解説
18	🤝 組織体制確立	解説
19	📊 災害廃棄物発生量推計	解説
20	🔄 処理・処分	解説
21	📄 処理実績とりまとめ	解説
22	🚚 し尿の収集、処理	解説
23	🤝 国、県、自治体との連携	解説

正解、不正解が表示されます

何度でもチャレンジでき、正解率が出ます

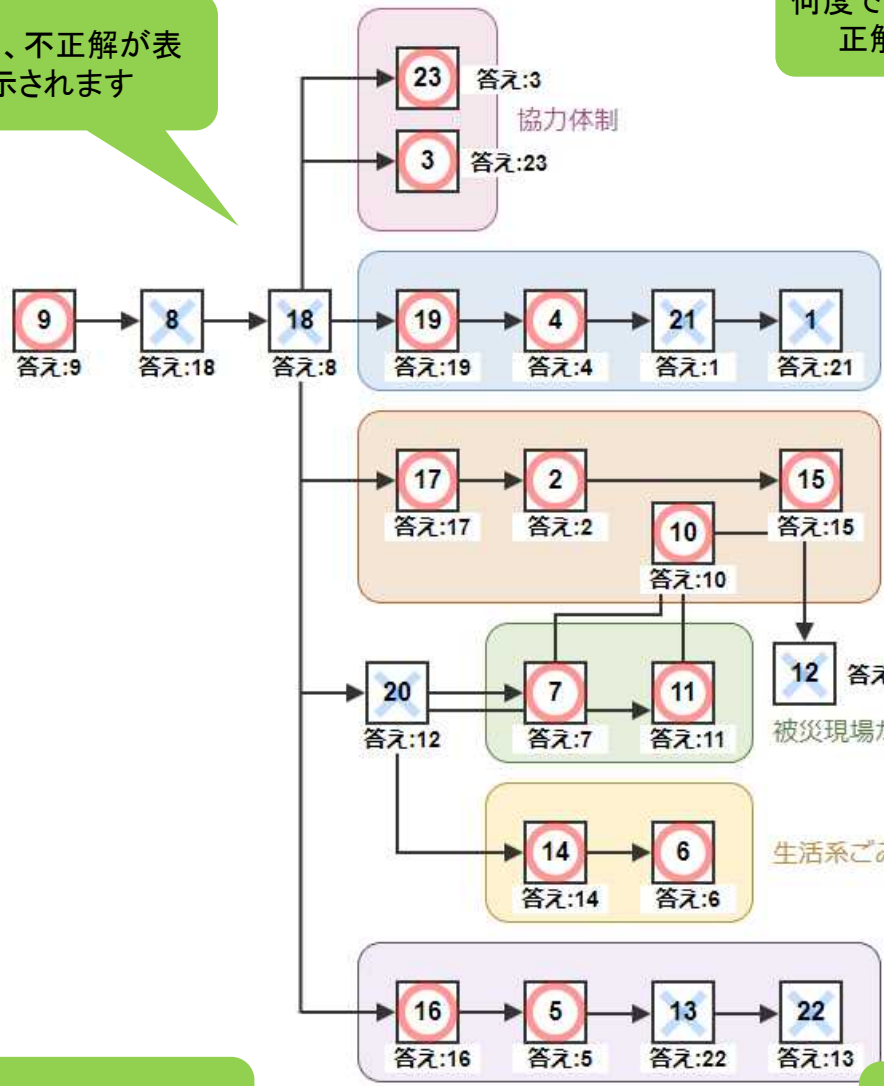
クリックすると、各アクションの解説ページにとびます

次の学習に進むことができます

難しい場合は、ヒントを出すことができます

1回目

正解数 15個	不正解数 8個	正答率 65.2%
------------	------------	--------------



全体計画・管理

仮置場の対応

被災現場からの撤去

生活系ごみ

仮設トイレ等

アクション

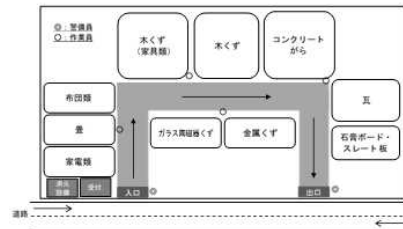
	アクション	
1	進捗管理・見直し	解説
2	仮置場設置・運営	解説
3	民間事業者との連携	解説
4	処理実行計画策定	解説
5	仮設トイレ設置	解説
6	避難所閉鎖・生活ごみの通常処理	解説
7	片付けごみの搬入	解説
8	被害状況の把握	解説
9	職員の安否確認	解説
10	破碎・選別	解説
11	損壊家屋等の撤去	解説
12	住民への広報	解説
13	仮設トイレ撤去	解説
14	生活・避難所ごみの収集運搬	解説
15	仮置場の復旧・返却	解説
16	仮設トイレ必要数の把握	解説
17	仮置場候補地選定	解説
18	組織体制確立	解説
19	災害廃棄物発生量推計	解説
20	処理・処分	解説
21	処理実績とりまとめ	解説
22	し尿の収集、処理	解説
23	国、県、自治体との連携	解説

満足した方
→ 次の学習

難しかった方
→ ヒント

仮置場設置・運営

- 仮置場のレイアウトを決め、区分毎の廃棄物置場や車両動線を定めます。
- 仮置場の運営に必要な資機材を準備し、仮置場を設置します。
- 量の管理に加え、分別指導、不法投棄の予防、火災予防対策、環境保全対策等を行います。



【設備】

・敷設板、砂利
重機での作業や大型車両の走行ができるよう、まためがねを防止するため、敷設板や砂利等を敷設する。



・出入口ゲート、チェーン、雨遮蔽
保安対策（侵入防止）、不法投棄の防止、盗難防止を目的に、仮置場出入口にゲートを設け、人や車両の出入りを管理する。夜間はゲートを閉め遮断する。



フロー図が完成した後の次の学習



「トラブルが起こった際の実際の対応事例を知る」を予定

京都大学 応用地質株式会社

このプログラムの開発にあたっては、一部（独）環境再生保全機構の環境研究総合推進費（JPMEERF20181003）を活用しました。